高雄日本人学校における現地理解教育

―― 現地小学校での日本語指導及び現地高級中学での古典指導を通して ――

前高雄日本人学校　教諭
茨城県筑西市立川島小学校　教諭　飯　村　將　俊

キーワード：在外教育施設、日本語及び古典指導、AG5、学校紹介文寄稿

1．はじめに

(1) 台湾と日本の関係について

1972年の日中国交正常化に伴い、日中共同声明に従い非政府間の実務関係として維持されている。日本との国交断絶後は、外務省の領事館に代わり、財団法人「日本台湾交流協会高雄事務所」が置かれ、在留日本人の支援をしている。

(2) 高雄について

高雄の人口は、約278万人（2018年8月現在)、台湾第三の都市である。高雄の人々は極めて親日的で、日本人とわかるととても親切にしてくれる。また、高齢者の中には、日本語で話かけてくださる方も多数いる。最近では、日本語を勉強している若者や、日本の文化に興味を持つ人々がかなり増えている。日本人には、暮らしやすい街である。

(3) 学校について

本校は、小学部から中学部までは、全て単学級で計9学級84名（2018年8月現在）の児童生徒が在籍している。校訓は、高雄の字から「た」・たくましい子、「か」・考える子、「お」・思いやりのある子である。教育目標は「変化の激しい社会に対応し、生涯にわたって学習し続けるために必要な、基礎的・基本的な学力を確実に身に付けること」及び「知・徳・体・情・意、それぞれが上質で、バランスがとれた人間を育成すること」である。本校は、現地中正國小校舎の一棟を借用して開校しており、中正國小児童約1500名と同一の校地の中で生活している。極めて親日的な台湾高雄だからこそ可能な学校運営形態である。この状況を最大限に活かし、小学部では毎年11月に学年ごとの交流会を実施している。また、教員も、中正國小の日本語指導へ出向くなど、交流活動を基盤とした教育実践を行っている。特に中学部の鹽埕國中との交流は、今年で36年目を迎えるなど、継続性のある交流活動が実践されている。

また、本校の伝統的な取り組みとして、和太鼓の演奏があり、主に現地校との交流活動や日本人会忘年会等で披露している。伝統を継承するために、全児童生徒と全職員が練習に参加している。現地校との交流会では、相手校へ演奏の仕方を教えるなど、コミュニケーション手段の1つとしても機能している。ここから巣立ち、世界を舞台に活躍できる人材の育成を目指し、日々支援を続けている。

2．実践内容

(1) 現地小学校での日本語指導

本校では現地校との交流の一環として、派遣2年目以降の教員が、校舎を借用している中正國小へ出向き、日本語を指導している。授業時数は、年間で全60時間。期間は、現地新学期が始まる9月から12月までの3か月間である。週に1度、担当学級の児童が日本人学校の職員室まで迎えに来て、ともに教室へ移動する。対象は、小学5・6年生である。尚、現地は満6歳の9月から小学校に入学するため、日本では小6と中1にあたる。教員1人が12時間を受け持ち、挨拶や基礎的な日本語を指導している。

児童には、両親のどちらかが日本人という場合や、小学校卒業後、日本の中学校へ進学するというケースもあり、日本語に親しみをもっている。また、学級担任も日本語が堪能な方もおり、授業の中で児童へ補足説明をし、協力してくれる方もいる。授業内容は、日本語指導の開始当初から指導案を毎年精選していき、誰でも授業実施ができるようにしている。また、前年度担当者を１人残し、データや教材を効果的に活用している。そのため、私のように拙い中国語であっても、授業実施がしやすい環境を整備している。

尚、この実践は、文部科学省の「在外教育施設における高度グローバル人材育成拠点事業『AG5 プログラム』」の一部となっている。

日本語指導の様子

【5年】

	指導内容	主な表現と語彙	異文化理解・活用
第１時	・あいさつと返事 ・自分の名前（ひらがな）	おはよう・こんにちは・さようなら・ありがとう・ごめんなさい・～さん・～くん・はい	
第２時	・ものの所有・同じ、違う ・１～10までの数の言い方	これ、誰の・私の・ぼくの・先生の・同じ・違う・これ、どこの・台湾の・日本の	じゃんけん 日本と台湾の比較
第３時	・知っている、知らない ・好きです、嫌いです	知っている・知らない・好きです・嫌いです・日本で有名な物（ラーメン・寿司・すき焼き・妖怪ウォッチ・ドラえもんなど）	食べ物・アニメ・有名人 新出単語を使ったかるた遊び

【6年】

	指導内容	主な表現と語彙	異文化理解・活用
第１時	・自己紹介 ・自分の名前（ひらがな）	わたしは○です・～が好きです・よろしくお願いします	名刺づくり
第２時	・使える形容詞	・おいしい・かわいい・すごい ・おおきい・ちいさいなど	文化紹介をしながら形容詞を使う
第３時	・買い物をするときの言い方 ・100～1000の言い方	○こください・いくらですか・△円です	日本のお金・買い物ゲーム

(2) 現地高級中學での日本古典指導

この実践のきっかけは、個人的に中国語を指導していただいているS先生に紹介されたことである。S先生は、現地の高級中學で日本語を指導されている。高級中學は、日本では高等学校にあたる。現地は学歴社会のため、この教育課程では、将来の進路を決定付けるものとなる。毎日１コマ50分の７時間授業を実施しており、日本語指導の位置づけは、選択教科である。

そこで今回は、日本の古典文化の基礎を紹介するため、日本の中学２年生で指導する『いろは歌』を指導した。導入では、関心を高めるため、日光のいろは坂の写真を見せた。

展開では、歴史的仮名遣いを紹介した。生徒は、現代日本語の指導を受けており、50音順表は理解していた。そのため、そこには存在しない「ゐ」や「ゑ」などを紹介した。さらに、古典の独特なリズムを覚えさせるため、暗唱指導をした。

次に、内容理解をさせるために、言葉の意味や隠された暗号等を伝えた。例えば、日本の「花」といえば、

「櫻」であること。また、7の倍数の文字をつなげると、「咎無くて死す」となることを紹介した。また、日本の古典文学の根底にあるテーマが「人生の儚さ」であることを伝えた。

意味については、日本の中高生でも理解することはなかなか難しい。そのため、台湾の生徒は、日本の有名人やアニメキャラクターに興味があることが分かっていたので、それを使って内容を理解させることに努めた。

最後は、生徒から日本に関する質疑応答をした。質問の多くは、日本の高校の制度や高校生の実態であった。私は、高校での指導経験があったので、そこから感じたことを答えた。

日本の大学への進学を希望している生徒もいたので、2020年から大学入試制度が変更されることを伝えた。

古典指導の様子

(3)「海外子女教育」への学校紹介文寄稿

この実践では、海外子女教育財団が発行している冊子「海外子女教育」(2017.7月号)で本校が紹介された。「海外校シリーズ」のコーナーでは、世界にある日本人学校のうち、毎月3校程度が紹介されている。その原稿作成を担当した。

原稿の内容は、「街紹介」、「現地の教育環境」、「学校の特色」の3点である。「街紹介」では、港町であり親日的な人々が多いこと。ライトレールなど、インフラ整備がされつつあることを紹介した。「現地の教育環境」では、日本の教育制度との類似点が多いことや中学部卒業後の進学先について紹介した。「学校の特色」では、現地校との交流を活かし、教育活動が行われていること。また、伝統的な取り組みとして、和太鼓演奏を披露していることを紹介した。

3．成果と課題

(1) 実践内容(1)により、中正國小の児童から私に声をかけてくれることが多くなった。また、毎朝正門で行う挨拶タッチでも、中正國小の児童から「おはよう」と返事がくる機会が年々増えてきている。もちろん、先生方とも挨拶をする機会が増えた。それにより、教務主任として参加している中正國小の校長や各教務主任との会議でも、緊張せず落ち着いて参加できるようになった。

授業は経験するごとに、進行が円滑にできるようになったので、今後も地道な継続が必要である。中正國小との会議では、様々な学校間交渉がある以上、お互いによりよい関係でいられるよう、我々がソフトの面から、積極的に交流をしていくべきである。

(2) 実践内容(2)により、現地の高校生の実態を知ることができた。現地は、学歴社会であるため、高校生は心理的な負担を感じていることが分かった。ただし、悲壮感が漂うわけでもなく、勉強は大変だけれど、その状況を楽しもうとしている様子が見られた。

また、日本への興味・関心は非常に高く、事前に把握していたよりも、日本の情報をよく知っていることが分かった。これは、NP制度によるものでもある。この事業は、日本文化を台湾の高校生に伝えるために、日本人を各高級中學に配置する事業である。

近年、台湾ではこの事業が活発であり、日本の高校との短期交換留学が頻繁に行われている。実際に、私の中国語の先生の子も、四国の高校へ短期留学をした。

親日的な国でもあるため、若い世代から日本への興味があることは、非常に喜ばしいことである。台湾と日

本との交流が、より一層盛んとなり、互いのよいところを認め合える関係を気付いていくことが重要である。

(3) 実践内容(3)により、高雄日本人学校のよさを伝えることができた。直書きをした子どもたちからのメッセージも掲載することができたため、小規模校ならではの人間関係の親密さを紹介することができた。

また、伝統的な教育活動である和太鼓演奏を紹介することができてよかった。これは、校務分掌の一部に設定されており、派遣教員と講師は、週に一度放課後に練習をする。

以前は、高雄日本人学校の設立に尽力していただいた陳我安さんの誕生日会に、演奏を披露していた。本年度は、台湾 3 校の交流会で、VTR で紹介することができた。本校の教育活動の中心であり、児童生徒と教員が共に練習し、引き継いでいることを発信できたのは良かった。

これから、高雄日本人学校へ入学してくる生徒へのよい資料となれば幸いである。